

令和元年度 第2回 出雲市総合教育会議 会議録

日 時：令和元年（2019）12月20日（金）15時～17時

会 場：出雲市役所 3階 庁議室

出席者： 出雲市長 長岡秀人

出雲市教育委員 小豆澤貴洋
水陽子
錦田剛志
金築千晴

出雲市教育長 楨野信幸

出雲市副市長 伊藤功 （オブザーバー）

教育委員会事務局

教育部長 植田義久

教育部次長 建部敏紀（教育政策課長）

学校教育課長 金築健志

児童生徒支援課長 兒玉浩二

教育施設課長 園山裕二

学校給食課長 金森真治

出雲科学館長 矢田浩一

学校教育課主査 山崎創

学校教育課課長補佐 陶山健志

児童生徒支援課課長補佐 渡部俊樹

教育政策課課長補佐 常松晃好（兼書記）

15：00 開会

（**植田部長**）定刻になりましたので、只今から、令和元年度 第2回出雲市総合教育会議を開会します。開会にあたりまして、長岡市長がご挨拶申し上げます。

（**長岡市長**）皆さん、こんにちは。年末、お忙しいところお出かけいただきましてありがとうございます。今年度2回目の総合教育会議ということでございますが、前回7月は、学校の制服の問題、ふるさと学習における出雲神話の学び方、それから、子どもを取り巻く多文化共生の取組、3点に絞っていろんな議論をいたしました。なかなか決められた時間の中では語り尽くせない話でございましたけれども、本日も、3点議題を用意しています。また、この1年を振り返って、この項目にとらわれず、出雲の今の教育を、様々な立場からお話をいただけたらと思っているところでございます。

昨今、少人数学級の問題でお騒がせをしておりますけれども、これが最終的にどういう決着になるかわかりませんが、少なくとも今の教育現場において、これ以上クラスの数が増えるようなことはしてもらいたくないというのが、我々の思いでございます。それがしっかり通じるように、できるだけ影響が少ないように、という思いでこれからも取り組んでいきたいと思っていますので、つけ加えさせていただいたところで、早速、会議に入りたいと思います。

（**植田部長**）それでは早速、協議に入りたいと思います。これからは、出雲市総合教育会議設置要綱第4条の規定によりまして、市長に進行をお願いします。

（**長岡市長**）それでは協議事項に入りたいと思います。最初の「ICT教育環境整備について」、これは事務局で資料を用意しているようでございます。まず、それを聞かせていただいてからと思っております。よろしくお願いします。

（**金築課長**）資料説明

- ◇ 文部科学省「GIGA スクール構想」について
- ◇ タブレット等を利用した教科書等のデジタルコンテンツ活用例
- ◇ 出雲市の現状、全国の状況
- ◇ 今後の課題

（**長岡市長**）はい、1番目の議題、ちょっと長い説明がありましたが、いかがでしょう。金築委員は、直接、関わりの深い立場としてはご意見ございますか。

（**金築委員**）1人1台与えられてもそれを上手に活用できるか、スキル等も含め今後の課題であると思いますし、先生たちの資質も一番重要なポイントかなと思います。先日、学校に視察に行かせていただいて、ある程度、タブレット等、整備されていたみたいですけど、まだそれを上手に使われている状況ではないのかなと思ったところ

もありました。整備されても持て余すということがないように、上手に使っていただきたいと思います。

（**長岡市長**）水委員さんは、どうですか。

（**水委員**）タブレットなどＩＣＴの活用について、教員がどういうふう to それを利用できるのか、プラスマイナスいろいろあると思うんですが、現場から「あったほうがよい」という声があるのかどうか、いかがですか。

（**金築課長**）先ほどもご紹介しましたように、来年度から使用する教科書にはたくさんのデジタルコンテンツがあって、これを利用しない手はないと思いますが、「１人１台」と言い出したばかりで、どこまで現場の先生に思いがあるのかは、我々もまだ把握しきれていません。

（**水委員**）算数の図形の勉強の例も先ほど紹介されましたけども、そういう教科の内容であれば、とても有効に活用できると思うんですけども、これまでなかったものを活用しようと思うとやはり、先生方もまたひとつ、それなりの学習が必要になると思います。ただ、子どもたちは、学習に対する好奇心が持てるようになったり、様々なプラスの面があると感じています。

（**長岡市長**）このＱＲコードは、教科書のいたるところにあるので、使わないと意味がありませんね。

（**榎野教育長**）ＱＲコードは、教員が読み取って大きな画面へ投影してやれば全体の活用にはなるとは思いますけど、そうは言っても、個人でできればそれが一番よいですし、家庭学習で、保護者のスマホを使ってという活用も考えられます。今後、どんどんデジタルコンテンツの教材が増えてくるんだろうなと感じますね。

（**植田部長**）デジタルコンテンツの利点は、子どもたちの理解の進み方が早くなるということです。言葉だけでは理解できないところが、実際に画像を見たりすることで体感できる、そうしたメリットはすごく大きいと思うんです。また、そこに向けた教員の教材研究の時間も有効に使えるといったこともあると思います。

（**長岡市長**）小豆澤委員はいかがですか。

（**小豆澤委員**）ハードといいますか、デバイスの話よりは、ソフトコンテンツの利用の仕方がポイントであると思っています。その中で、「教科書のＱＲコード読み取り」は、教育現場において活用が進むのか疑問に感じる部分があります。ただ、子どもたちがこれからのＩＣＴ環境をどう乗り越えていくのかっていう観点から考えれば、どんどん使ったほうが、使わないよりはるかによいだろうというふうには思います。

大人たちがついていけるのか心配される話はよく聞くんですけども、子どもたち側のメリットを優先に考えていけば、わかりやすい話ではないかなと、私は思います。

（**長岡市長**） 錦田委員はいかがですか。

（**錦田委員**） みなさんと同じような感想は持っておりますが、少し違う視点で意見を述べさせていただきます。仮に導入するとなれば、多額の税金を投入しなければならないわけですが、今後、国が機器の仕様についてどの程度のものを示されるのか、4. 5万円/台で本当に充足できるのか、ということが心配されます。それと、もう1点心配しているのは、国の補助金がついたのという理由で導入したものの、5年後には、「あまり効果はなかった、新しい OS が出てきたので過去のものになってしまった」といったことにならないか、単なる国の景気浮揚対策であるならば、そこは乗らないほうがよいと私は思っています。財源措置においては、相当慎重に見極めるべきだと思っています。ICT教育は絶対必要であることはもう間違いないし、みなさん委員さん方と全く同じ考えですけども、今回の件については、十分検討を踏まえてから判断をしなければいけないのかなという、印象を持ちました。

（**長岡市長**） 伊藤さん。

（**伊藤副市長**） 令和2年度、令和3年度は、本市は、大型事業が本格化する時期ですし、学校も統合校を2校やっています。非常に財政需要の高い時期なので、簡単に「何億」という金額をねん出するのは非常に難しい時期だなと思っています。ただ一方で、最終的にやるものであれば、補助金があるときに補助金を使ってやったほうがよい、ということですから、ちょっと「せめぎあい」というかですね、苦慮していますが、少なくとも「3人に1台」というのはもともと、教育的見地からきちんと議論された話ですけども、この「1人1台」というのは、おっしゃるように経済対策の目玉ですので、教育的見地からどこまで議論されたかどうかは、わかりません。その辺はかがかなと思いますが、1人1台に向かうということが条件だということになるとですね、クリアすべき課題が多いと思いますね。ICT教育は必要ですけども、よい事ばかりが並べられていて、副作用というのはないのですか。

（**小豆澤委員**） おそらく、その「よい事」も、実際に使っていませんから、一部の事しかわからないと思います。活用の可能性は、調べれば調べるほど広がっていくものだと思います。例えば、過疎地教育にも活用できるだろうし、いわゆる「引きこもった子どもたち」の教育の保障制度にも持っていけるだろうと思います。多分いろんな「よい事」があるけども、今の説明は「よい事」ばかり言っているわけではなくて、その一部の例を示されただけで、私が説明することではないんでしょうけども、もっとよい活用方法は、たくさんあると思います。

それでは、副作用は、ということですが、「端末を手放さなくなった」とかそういう

うことですよね。そういった部分に関しては、おそらくこの後にスマホのこととかも出てくるんだろうけども、私は、もっと「よい事」の情報を集めたほうがいいと思います。

私は、こんな世界が来るなんて予想してなかったんです。これからの子どもたちの「未来の明るさ」という面では、デジタル社会の進歩のおかげで、一気にね上がった、というのが私の認識である一方、教育現場はアナログだな、とすごく思っています。

(長岡市長) 大体、皆さんの意見はお伺いできました。あとは、「この機に乗じて」という話なのか、そこのところだけだと思いますね。教育委員会としては、もうこれを逃すと次がないという話でしょうけども、要は、補助金がつくからやりましょうという話ではなくて、それをやる理由をしっかりと示してもらう必要はありますね。

それではちょっと先を急ぐようですが、2点目の選択校区の問題について、事務局のほうから説明をお願いします。

(常松課長補佐) 資料説明

◇ 出雲市立学校校区検討委員会の概要、議論の経過、論点

(長岡市長) 小豆澤委員さんには検討委員会に参加していただきました。

(小豆澤委員) 私がその場で発言したのは、みなさんが地域に対する思いを持ちながら、地元理解のもと統合していく郊外の学校がある中で、「こちらの子どもだ」といったような議論を展開するよりは、やはり、教育委員会で最初に導入された目的という部分がしっかり達成されているこの選択校区制においては、「市の中心部に存在する学校の有効利用」という観点で議論していったほうが、市民の皆さんの共感を得ることができるのではないか、ということでした。

(長岡市長) 水委員さんはどうでしょうか。

(水委員) 私も、四絡地区の会から呼んでいただき、いろいろ生の声もお聞きして、その思いについては理解しておりますけれども、やはり1番には、実際に選択校区制度を利用している保護者あるいは子どもたちのことを考えるということが望ましいかなと思って話を聞かせていただきました。災害時の対応とかいろいろ理由は述べておられますし、地域の活動とか子どもたちと地域のかかわり合いということはもちろんとても大切なことだと思うんですけれども、何のために、誰のためにこの制度があるのかということと、やはりお互い地区は違っても、大事なところでは情報は共有すべきであるということが、この問題のポイントかなと思いました。

(長岡市長) 錦田委員さんはいかがですか。

(**錦田委員**) この問題、私も四絡地区の会にも出席させていただいて、両方の意見はよくわかるんですけども、そもそもこの制度を導入した時点から、こうした議論は見据えたうえで議論しておかなければいけなかったのかなとつくづく思いました。こうなることが、皆さん、わかっていたんじゃないかなというふうに思いまして、一度導入したら、制度を元に戻すときに大変なエネルギーを費やすことになるので、この問題に限らず、流行りの制度だからといってすぐ軽々に乗らない、ということが実はすごく大事で、ちょっと立ちどまって考えるということが、今の社会全体に求められているだろうし、特に教育行政の中では、この制度を導入されたときの段階で、もう少し慎重に議論されるべきであったのかなという感想しか私は持っておりません。

もうひとつ言うと、やはりバイパスの開発というのは「地域の分断」という意味においては、負の面がありました。弥生時代、古墳時代の集落は、河川によって集落の文化は大きく変わっていくものでありました。今は、それが幹線道路であるということです。これにより、集落が大きく分断されるということのリスクは必ずついて回るし、これから先も、開発が進めば進むほど、いわゆる昔ながらのコミュニティーというのは、なかなか維持はできないですね。そういう状況においては、「新しいコミュニティーのあり方」に向かって進まざるを得ないと思います。四絡地区の方々の心配は非常によくわかるんですけども、ふるさと教育のことをおっしゃるのもよくわかるんですけども、もう前に向かって、新しいふるさとを創生していくという観点で物事をとらまえて、それは、行政も、民間の方々も、もちろん自治会も、そうしていかないといけないんじゃないかなと、教育にとどまらない大きな問題をはらんでいたんだということを印象として持ちました。

(**長岡市長**) 金築さんはどうでしょうか。

(**金築委員**) 私は、教育委員になって初めてこのことを伺って驚いたというか、私自身の出身校は、小学校も中学校も統合されてなくなっているんで、小豆澤さんが先ほどおっしゃったように、そういう選択があってうらやましいという気持ちは、少しありました。否応なしに学校が統合になった子ども達は、何も言うこともなくスクールバスで通っています。ある意味、そういうことで議論できる状況にあるというのは、不思議でした。なので、この問題に関して何も言えないんですけども、ただ、四絡の子だから、今市の子だから、と分けるのではなくて、みんなで見守っていけばよいのではと思います。制度の目的もある程度達成されているので、しばらくは様子を見て、みんなで子どもたちを守っていくということがよいかなと思います。

(**長岡市長**) 統合した小学校では、二つの地域のふるさと学習について教えていますよね。

(**錦田委員**) ふるさと教育については、教育委員会の中でも議論があったと思うんで

すけども、これはやはり市の教育委員会が取り組むものであれば、オール出雲のふるさと教育をすべき、と私は思います。それよりも小さなコミュニティーのふるさとをどう教えるかというのはこれは、やはり学校現場とかでやることじゃなくて、まさに地域の方々が、あるいは、家族の方やふるさとの方々が公民館単位などですべき事柄であって、やはり教育委員会、市の行政が行うものは、オール出雲のふるさとについて、力を入れて、位置づけて、当然、財源もつけて、政策も立案して進めていく事柄なので、「四絡地域のふるさと教育を受けることができない」というのは、ちょっと最初から私は異論がありました。

（**長岡市長**）明治の学制発布から、全国津々浦々小学校ができて、まずそれが基本なんです。子どもの教育のためには、村の予算の5年分ぐらいは皆出して、教育のためにということでスタートしたものが、行政合併も同様なことですが、合併を繰り返すうちに様々なことが変化していった。とは言っても、やはり最初は町内会でしょうけど「各地区」という、元を正せば小学校区、その思いというのはそれぞれが残っているわけですし、小学校がなくなった地域もありますけれども、かつての小学校校区という「ふるさと」があり、それと、「オール出雲」、といっても2市5町が合併した出雲でそれぞれ、旧自治体、コミュニティーセンター単位でそれぞれの持つふるさとがありますから、それらすべてを知る機会があって初めてこの「出雲」という話になるのかなと思っています。

一時期には、文科省において全部自由校区にしたらという話がありましたし、当時はそれもよいなという意見もあった。保護者、児童生徒が選択して、あの学校よさそうだからあそこへ行こうと、あの校長先生がいるからあの学校へ行こうということで、相互乗り入れでやったときに、自然と淘汰される学校は出るだろう、それは、廃校にしたらかどうかというような議論が、非現実的な話かもしれませんがもあったんです。この制度を導入するときは、そういう時期であったことは間違いない。

伊藤さんはどう思いますか。

（**伊藤副市長**）姫原4丁目は商業施設と県立中央病院しかないの、姫原1丁目から3丁目、そこに住宅が建って新しい人が入って、子どもたちは今市小学校に行っている、ということが多いかなと思っています。四絡地区の皆さんは、熱心に思いを持って取り組んでいらっしゃいますから、難しい問題であると思っています。

（**小豆澤委員**）何よりも人口が増えた場所は、どこも町内加入率は低下していますね。

（**伊藤副市長**）いろいろ事情があるでしょうけど、集合住宅のみなさんは難しいですね。自治会において加入活動をいろいろしておられますけれども、個別に住宅で加入していらっしゃるお宅に伺って、お願いをして、なんとか町内会に入っているという活動していらっしゃる中で、なかなか集合住宅に向かっても難しいということは明らかかな状況です。

（**錦田委員**）私の地元でも、ニュータウンがたくさんできまして、印象としては、一戸建てでしばらく暮らしておられると、最初は町内会未加入だったお宅も、子どものつきあいとか、地域の防犯、防災で、少しずつですけど入ってくださるんですよね。でも、今おっしゃったように、やはりアパートやマンションの方は間借りの意識ですから、なかなかそこへ向かって、私も自治会加入で歩いたりするんですけども、興味を持ってもらえない。でも、何年か経つと、住めば、だんだんと愛着がわいてきて、おのずから加入率も上がってくるんじゃないかなと思います。今、急激な都市化の中で、こういう結果になっていますけど、私はそんなに悲観していなくて、おそらくお家を持って、つきあいが始まると、少しずつは上がっていくのかなと思っています。逆に、そういうふうに入りたくなるような自治会運営をしていかなければいけないということもありますけども。

（**伊藤副市長**）あまり加入「率」だけにこだわるのは、よくありません。加入戸数はどんどん増えており、また、山陰地方でも、今、出雲市が一番集合住宅の新設が多い地域だと思っていますので、目先の率にこだわるのではなく、実際の数、絶対数を見ると増えている、少し持ち直しているというところもあるので、それを地道に上げていくというような努力をしていけばよいのかなと思います。

（**長岡市長**）なかなか難しい問題です。いずれにしてもこの検討委員会、答申を待ちたいと思います。

それでは、3点目の、出雲市内小・中学校保護者対象のスマートフォン等に関するアンケート調査結果について、よろしくお願いします。

（**兒玉課長**）資料説明

- ◇ 小学生所持率 14.7%、中学生所持率 41.5%
- ◇ 保護者は、児童生徒の長時間使用について困り感を持っている
- ◇ 今後、更に踏み込んだ内容の調査を関係機関と連携し実施し、より実態に即した効果的な取組につなげたい

（**長岡市長**）アンケート結果についての説明でありましたが、いかがでしょうか。学校への持ち込みは禁止していますか。

（**兒玉課長**）はい。原則禁止しています。

（**小豆澤委員**）子どもたちも、知らず知らずのうちに、スマホを使っているつもりがスマホに操られている側になっているということの危機感はあるんだろうというふうには思いますけども、せっかくだったら、1番最初の議題の、ICT教育環境整備と

合わせて何か上手な解決の仕方ができれば 1 番よいんだろうなというふうには思います。いろんな意見があって、中学生から持たせるのがよい、高校生から持たせるのがよい、いやもう、大学生からがよいのではという議論があるならばそれは、もしかすると政治家の皆さんに立法してもらったほうがよいのではないかなと思うぐらい、もう自分たちがどうこういう部分ではないような気がします。

そういった中で、うちの子どもは、中学生になったときからスマホを与えています。ルールがあるかと言われると、スマホでどうこう問わず、遊ぶんだったらやる事やってからにしろよぐらいの話ですよ。だから、宿題が終わって、明日の準備が終わってからしなさいよという中で、よく学校からはメディアを 1 時間までというようなお便りが来ますけども、間違いなく寝るまでやっていますよね。

それで、逆に、それぐらい子どもが夢中になるというものの活用を考えていったほうがよいのではないかということを、私は正直思っております。どう規制していくかという話は、非常に難しい気がしますね。私はどちらかというと、これはスマホですけど、先ほどのタブレットなどは、小学生、中学生は当然、自分の手足のように使えることに越したことはないっていう感覚です。

（兒玉課長） 高校生になると、所持率も 100% に近くなるので、学校へ持って来させて、そこでそのタブレットやらスマホを使って専門の方を呼んでそこで指導する、マイナスの面も含めて指導するということは聞いています。ですけれども、中学校では、そうしたことを具体的につけていうのはなかなか難しいところです。

（金築委員） 私の子どもは、社会人なんですけど、高校のときに、スマホの負の部分の講習会がありました。勉強になったと思います。小学校や中学校でもやってもいいと思います。今、保護者向けだけではなく、子どもに向けても、そうしたことをやって、怖いことがあるということを知っておかないと、正しく、楽しく使えないと思うので、事あるごとに言っていくといけない、先生もそういう教育されたほうがいかなという気がしました。スマホは本当に楽しいものなので、それを規制するというのはなかなか難しいと思います。逆に、子どもは楽しみをわかっていますし、たくさん知識を持っていますので、ICT 教育などに活用させてもらって、子どもからアイデアをいただく、こういうやり方があるとか、こういうふうにしたら楽しいよということを、子どもに聞くと、よいアイデアがたくさん出てくるのかなっていうこともちょっと思いました。

（長岡市長） 水委員さんはいかがですか。

（水委員） 高校から持たせることが望ましいというのが保護者の意見で一番多いということに、私はすごく驚いています。小学生から持たせることが当たり前と思っている保護者が大半だと思っていたんですけども、本当に驚きました。

小さいときは、なかなか自分で自分を管理したり律するということは難しいと思うんですけども、やはり中学生以降になりますと、自分が持っている 1 日 24 時間の時

間をどういうふうに割り振って使うのかということは重要で、特に、これからの子どもたちは、ネットやスマホだけではなくて、テレビでも映像でもあるいはゲームでも、そういうものに囲まれて、育っていくわけですから、私たちの時代以上に意識して毎日過ごさなければいけないと思います。そうした時間の使い方を自分で考えるという教育は、やはり学校教育の中でこれからかなり大切なものになるのではないかと思います。なかなか家庭で親がそれをというのは、ちょっと難しいという話をよく私は耳にしていますが、昨年、中学校の運営理事会で、PTA会長さんがスマホの使い方とかについてもっと学校教育でやってほしいと校長先生に言われたときに、校長先生は、そういうものは家庭の中で保護者が費用を払って持たせていらっしゃるものなので、費用を払っている方がもっと意識してくださいっていう答えをされまして、私も同じ保護者ですけども、なるほどと思いました。なので、なかなか難しいと思いますが、子どもたちが学校の中で過ごす時間は多いですので、やはりそういう意識をお互い大人も持つべきなのかなと思っております。

（**長岡市長**） 錦田委員さんはいかがですか。

（**錦田委員**） やはり、高度情報社会の中で欠かせないツールであることは間違いないんですけど、負の部分として、これに伴う凶悪犯罪が、結構起きてるわけですね。スマホの情報とどう向き合うかというリテラシー教育は、学校教育現場でも力を入れてもよいのかなと、家庭では限界があるんだろうと思いますので、高校で、講演活動で子どもたちにどうやって向き合うかっていうことをやっている方がいらっちゃって、非常に興味深く私の子どもが当時聞いて帰って話をしていたことがあります。とても便利なものなんだけれども、そういう影の部分があるということは、やはりしっかり教えていくべきだろうと思っております。SNSを介した青少年を巻き込む犯罪が全国的な傾向として増加傾向にあるということで、凶悪犯罪につながるということもあって、犯罪の防犯意識を高めるためにはどうしたらいいのかということが大きな課題になっています。教育委員会としても、これから、教育の中でどうその負の側面も教えていくのか、もちろん便利ですばらしいものなんだけれども、いかに危険性が伴うかということも、それから、情報が正しいのか、フェイクなのかということを見きわめる力というのは、家庭の中では限界がありますから、学校や社会の全体の中での、全ての計画の中で取り組んでいくべきことじゃないかなということを考えております。

（**小豆澤委員**） 負のイメージで、ゲームやSNSなどでのいろんなことが取り沙汰されているんですね。でも、私は、ICTが導入される中で、タブレット等を使って、もっとよい方向への使い方を子どもたちがどんどん知っていくと、また状況は違うと思います。いろんな活用ができるのに、今の子どもたちがゲームとかSNSとかのみ携帯に入っているっていう前提で使ってる傾向も強いんですね。その活用方法を知らなくて、子どもたちは別にそれでよいと思うんですけど、教育委員会としてこうし

たいというのであれば、活用方法を考えるべきだと思います。子どもたちというよりも、周りの大人たちが、どういう子どもを育てたいってことを計画で定めてますよね。であるならば、スマホなどを有効に活用していける子どもたちをどういうふう
に育てるのかということを考えて、それを示してやらなければ、ゲームにのめりこんでいる子どもたちに、それはだめだよ、と言うだけでは、多分何も進まないんじゃないかというふうには思います。

（長岡市長） 教育長。

（槇野教育長） どこから手をつけてよいかわからないような課題になってきていましたが、ここへきていろいろと現場の実態とか課題を聞いたり調べたりすると、対処方法などですね、今、いろいろ意見もあったわけですけど、こういう研修をもっとしなければいけないとか、こういうものをやらなければというのが、少しずつ見えてきたかなという思いを持っています。なかなか、これを1回やればオーケーというものはもちろんありませんし、一度に全部の人というわけにはいきませんが、そうかといって何もしないでいるわけにはいきませんので、いろんな機会を作りながら、それぞれの対象にあった研修であったり学習会であったり、また、実技も含めたものでこれから考えていかないといけないなという思いを持っています。そうした中、こういうアンケートもやってみたところですけど、先ほど説明にありましたけど、来年度から具体的な項目で、児童生徒に、実態調査するということですので、しかもその実施主体が、医療関係などの専門家の皆さんが入っておられますから、いろんな側面から、こういう対処をしていこうというヒントや意見も聞けるかと思えますし、対策を練ることもできるかなというふうに期待をしています。

ですので、これからますますやっていかなければという思いを新たにしているというところでございます。

（長岡市長） 本日の3項目については、難しい問題ですが、いずれにしてもしっかりと、いろんな角度から物事を見ながら、というところをやっていきたいと思っております。1年間を振り返って、各委員さんから感想をいただきたいと思えます。錦田委員さんいかがでしょうか。

（錦田委員） 学校現場を見させていただいたり、いろんな学校の先生方とお話をする機会に恵まれまして、学校の現実を見まして、本当に教員の方は大変だなというのを、また今年も実感いたしました。ですが、やはり子どもは本当に宝ですので、これは学校現場だけに任せたらいかんなということをまた強く思って、さっきの話じゃないですけど、地域の力が、子どもたちを育てるということを感じた1年です。

（小豆澤委員） 私も、先ほど言われたように、教育委員になってこれだけの行政マンの方々や学校の先生方が、我が子たちの教育のためにご尽力いただいているというこ

とを知ることができただけでも、教育委員になった甲斐は、十分にあったというふうには、思います。今日、市長の冒頭のあいさつであった少人数学級編制に関して、県の方針の対する反対の署名を集める活動を各学校の PTA 会長の名前でされていることに違和感を感じています。PTA 会長は、よい話しか聞かされてないんですよ。少しそういった民意の問い方に疑問を感じていて、本当は時間があれば、聞いてみたいなと思いましたけども、またにします。

(水委員) 本当にこの 1 年間の中で、いろいろなことがこの教育委員会の中でもあって、毎日のように文部科学省は大学入試の話をいろいろされていて、国があって、県があって、市があって、それぞれの学校へおりていく間にも、いろいろとおもしろい話もあればそうではない話もあったり、それでも本当に学校、教育委員会、地域、保護者の皆さんが、子どもたちを健全に健やかに育てると同じ思いを持って、同じ思いを共有して、前を向いて進んでいけたらということを、この頃すごく感じておりました、こちらへ出させていただいても、本当に、皆さんご苦労様だなとそのように思っております。本当に子どもたちが真っすぐ育っていつくれることを願って、また、今後も頑張ろうと思います。

(金築委員) 私は今年から入らせていただきまして、知らないことがいかに多かったということがよくわかりました。皆さんにいろいろ教えていただいて、助けていただいたと思っています。先ほど、水さんもおっしゃったんですけど、子どもの笑顔、笑い声っていう、「地域の宝」というか、大人にそれが元気を与えてくれるものだなっていつも思っていて、子どもたちが笑っている顔が見たい、ただその一心で関わっていきなと思っています。子どもを取り巻く環境は大変ですし、保護者、先生もちろん大変だと思いますけども、みんなが笑って生活できることが 1 番の望みで、とにかく子どもが笑って過ごせる出雲市であってほしいなと思っています。今後も頑張っていけたらなと思っています。

(長岡市長) 時間も来たようでございますので、本日は、第 2 回出雲市総合教育会議、ありがとうございました。それぞれ、もっと掘り下げていろいろ話をすれば、きりが無い話だろうと思いますけども、できる限り、違った角度から見たり、意見を聞いたりして、トータルで最終判断していくという進め方をこれからもしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。事務局へお返しします

(植田部長) それでは、以上で、第 2 回出雲市総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。

17:03 閉会